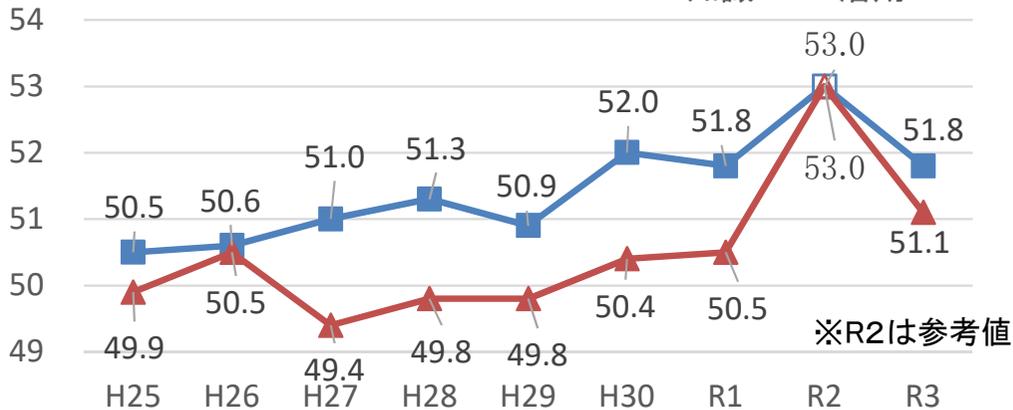


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化

■ 知識 ▲ 活用



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
話すこと・聞くこと	84.0	81.5	77.5
書くこと	60.4	56.3	51.3
読むこと	65.2	63.6	60.0
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.5	80.0	73.8

○全ての領域において、全国正答率及び目標値を上回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
国語への関心・意欲・態度	71.8	68.1	63.3
話す・聞く能力	84.0	81.5	77.5
書く能力	61.2	57.1	52.1
読む能力	61.4	60.0	56.8
言語についての知識・理解・技能	82.9	79.1	73.0

○全ての観点において、全国正答率及び目標値を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	71.9	70.0	66.3
短答	80.2	76.9	70.8
記述	64.6	59.7	54.3

○全ての解答形式において、全国正答率及び目標値を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問6(3) 県正答率26.4% 県無解答率40.3%

「グラフに示された内容を読み取りレポートの考察を書く」

- ▶ レポート内に示されたグラフから必要な情報を読み取ることができる。
- ▶ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えを明確にして書くことができる。
- ▲ 複数の情報(文章とグラフ、グラフとグラフ)を関係付けて考え、それぞれがどのように結びついているかを捉えることに課題がある。
- ▲ 資料の中にある情報を自分の伝えたいことの根拠として用いて読み手に分かりやすく書くことに課題がある。

◆ 指導のポイント

○2年生[B書くこと]の指導事項ウについて、以下の内容に留意して指導の充実を図ること。

- ▶ [知識及び技能](2)イ「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと」の学習との関連を図ること。
- ▶ 資料の中にある情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討する場面を設定するとともに、書いた文章を互いに読み合い交流する活動を通して、根拠を明確にして書く力を身に付けること。

★ 指導の具体例

※平成31(令和元)年度「授業アイデア例」の活用

(https://www.nier.go.jp/jugyourei/h31/data/19idea-mlang_03.pdf)

◆平成31(令和元)年度全国学力・学習状況調査

- ・【意見文の下書き】を読み返したあと、新たに得た情報をもとに文章を書き加える問題

<授業アイデア例より>

第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつ。 ・意見文のテーマに沿って自分が読み手に伝えたいことを決め、伝えたいことにふさわしい根拠について考える。 ・各自で必要な資料を集める。
第2・3時	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にある情報が、それぞれの伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかについてグループで助言し合う。 ・助言を踏まえ、意見文の下書きをノートに書く。 ・意見文の下書きを「観点に沿って」読み合い、良い点や改善点について交流する。
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで交流した内容を踏まえ、各自で意見文を完成させる。 ・学習を振り返る。

重要

- ・伝えたいことにふさわしい根拠が示されているか。
- ・資料の中から取りだした情報が正確に書かれているか。 など